

2011

CSR 報告ダイジェスト

アンリツ株式会社
www.anritsu.com/csr

CSR

CSR Report Digest



目次

会社概要	01
事業概要	02
トップコミットメント	04
アンリツのCSR	06

達成像1 「安全・安心で快適な社会構築への貢献」	08
-----------------------------	----

達成像2 「グローバル経済社会との調和」	10
-------------------------	----

達成像3 「地球環境保護の推進」	12
---------------------	----

達成像4 「コミュニケーションの推進」	14
------------------------	----

2010年度の実績と2011年度の目標	16
---------------------	----

第三者意見／第三者意見を受けて	17
-----------------	----

アンリツでは、CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) を「企業活動のプロセスに社会的公正性や環境への配慮などを組み込み、ステークホルダー（お客さま、株主、社員、環境、地域社会など）に対しアカウンタビリティを果たしていくこと。その結果、経済的・社会的・環境的パフォーマンスの向上を目指すこと」と定義しています。

編集方針

今回（2011年度版）も昨年度に引き続きアンリツのCSR活動に関する情報は、Webサイトで詳細を、PDFでダイジェスト版として報告します。ダイジェスト版では、『アンリツCSR活動のあるべき姿（達成像）』ごとに特にお伝えしたい活動について分かりやすく報告することを基本としました。Webサイトでは、重要性測定により導き出された12の重要課題を達成像ごとに整理し、それぞれの具体的な活動状況を掲載することで、より多くのステークホルダーの皆さまにお伝えすることに努めました。

アンリツのCSR活動報告の詳細は、下記Webサイトでご覧いただけます。

<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/>

*CSR報告では、アンリツグループの活動のうち、社会および環境とのかわりを中心に報告しています。（財務面の詳細については、Webサイト <http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/Investor-Relations/> またはアニュアルレポートをご参照ください）

〔参考としたガイドラインなど〕

・GRI〔サステナビリティ・レポート・ガイドライン 2006〕
・ISO26000:2010

活動報告対象期間

2010年4月1日～2011年3月31日
（一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます）

活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ（株）のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

- ・「アンリツ」または「アンリツグループ」
記事内容がアンリツ（株）およびグループ会社全体の場合
- ・「アンリツ（株）」
記事内容がアンリツ（株）単体の場合
- ・「グループ会社」
記事内容がグループ会社またはその一部の場合

発行日：2011年7月28日

お問合先：アンリツ（株）
コーポレートコミュニケーション部
CSR推進チーム

T E L：046-296-6514

F A X：046-225-8358

U R L：http://www.anritsu.com

（次回は2012年7月に発行予定です）

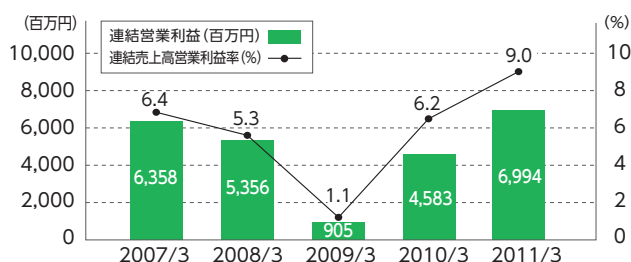
会社概要



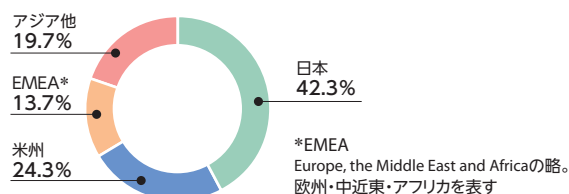
本社所在地 神奈川県厚木市恩名5-1-1
 創業 1895年
 資本金 140億51百万円^{*1}
 売上高 778億53百万円^{*2}
 株主数 16,573名^{*1}
 社員数 3,614名(連結)^{*1}
 825名(単独)^{*1}
 取引先社数 807社^{*3}

^{*1}: 2011年3月31日現在 ^{*2}: 連結: 2011年3月期 ^{*3}: 2011年6月14日現在

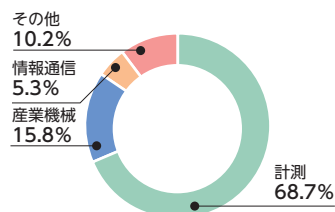
■連結営業利益／連結売上高営業利益率



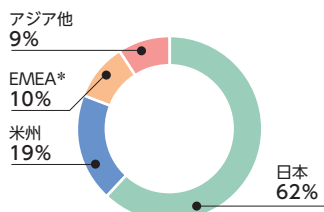
■地域別連結売上高比率 (2011年3月期)



■事業別連結売上高比率 (2011年3月期)



■地域別連結社員比率 (2011年3月期)



■アンリツ(株)社員データ

社員数 ()は幹部職 で内数	年度			
	2008年度			
	2009年度			
男性	745 (167)	719 (171)	711 (165)	
女性	128 (5)	112 (5)	114 (4)	
計	873 (172)	831 (176)	825 (169)	

■グローバルにみた女性の活躍状況(2011年1月末現在)

	日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率 (女性社員数÷全社員数)	14%	32%	23%	29%	23%
男性を100とした女性の幹部職登用率 (女性幹部職数÷女性社員数)÷ (男性幹部職数÷男性社員数)	12%	64%	64%	44%	48%

■障がい者雇用の推移

	2008/12	2009/12	2010/12
目標雇用率(単独)	1.80%	1.80%	1.80%
実績雇用率(単独)	1.59%	1.76%	1.98%
参考: 実績雇用率(国内連結)	1.44%	1.37%	1.50%

国内グループ会社

- アンリツ産機システム株式会社
産業機械の開発・製造・販売・修理・保守
- 東北アンリツ株式会社
情報通信機器・計測器の製造
- アンリツ計測器カスタムサービス株式会社
計測器の校正・修理・保守・EMC試験
- アンリツデバイス株式会社
光デバイスの開発・製造・販売
- アンリツネットワークス株式会社
情報通信製品の開発・販売、システム設計、保守、サービス
- アンリツプレジジョン株式会社
精密計測機器の開発・製造、保守
- アンリツエンジニアリング株式会社
ソフトウェア・ハードウェアの開発
- アンリツ興産株式会社
計測器のリセール・リサイクル、デザイン・ドキュメント・名刺制作、その他
- アンリツ不動産株式会社
不動産の賃貸
- アンリツテクマック株式会社
切削・板金部品、ユニット組立品の製造・販売
- 株式会社アンリツプロアソシエ
経理財務、給与計算、福利厚生に関するシェアードサービスセンター業務

海外グループ会社

- Anritsu U.S. Holding, Inc. (U.S.A.)
- Anritsu Company (U.S.A.)
- Anritsu Instruments Company (U.S.A.)
- Anritsu Industrial Solutions U.S.A. Inc. (U.S.A.)
- Anritsu Electronics Ltd. (Canada)
- Anritsu Eletronica Ltda. (Brazil)
- Anritsu Company, S.A. de C.V. (Mexico)
- Anritsu Ltd. (U.K.)
- Anritsu EMEA Ltd. (U.K.)
- Anritsu Industrial Solutions Europe Ltd. (U.K.)
- Anritsu S.A. (France)
- Anritsu GmbH (Germany)
- Anritsu S.r.l. (Italy)
- Anritsu Solutions S.r.l. (Italy)
- Anritsu AB (Sweden)
- Anritsu AB (Finland)
- Anritsu AB (Denmark)
- Anritsu A/S (Denmark)
- Anritsu EMEA Ltd. - Dubai Liaison Office (U.A.E.)
- Anritsu EMEA Ltd. - Representation Office (Russia)
- Anritsu Solutions S.R.L. (Romania)
- Anritsu Company Ltd. (China)
- Anritsu Electronics (Shanghai) Co., Ltd. (China)
- Anritsu Industrial Solutions (Shanghai) Co., Ltd. (China)
- Anritsu Company, Inc. (Taiwan)
- Anritsu Corporation, Ltd. (Korea)
- Anritsu Pte. Ltd. (Singapore)
- Anritsu Industrial Solutions (Thailand) Co., Ltd. (Thailand)
- Anritsu Pte. Ltd. India Branch Office (India)
- Anritsu Pty. Ltd. (Australia)

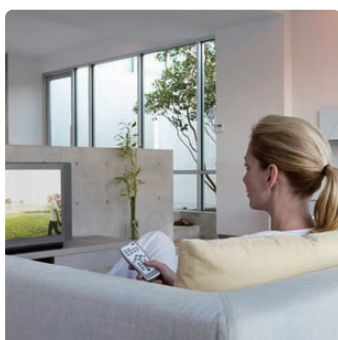
毎日の生活につながるアンリツグループ

あなたの暮らしをより便利に、快適に。



携帯電話

携帯電話の動作検証



地上デジタル放送

放送エリアの確認



カーエレクトロニクス

通信カーナビや ETC の
動作検証



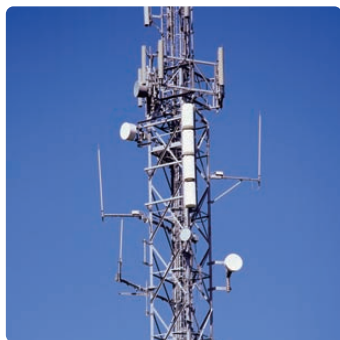
金融ネットワーク

重要通信の品質保証

アンリツが提供するソリューション

はかる、みまもる、ささえる。ア
映像監視などのさまざまな分野
支え、安全・安心で快適な社会

暮らしのイン



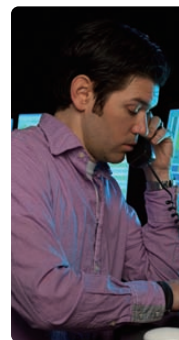
携帯電話基地局

基地局のエリア確認



光ファイバー

光ファイバーの
断線箇所を特定



通信ネット

ネットワーク
品質

あなたの暮らしに安心を。



情報家電

内蔵プリント基板の
はんだ検査



地域社会 / コミュニティ

双方向通信による
安全の確認



食 品

食品中の異物混入を検出



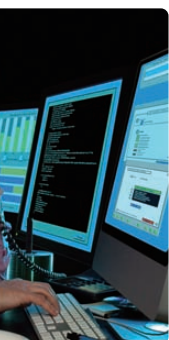
医薬品

薬品の形状や質量検査

シヨンで安全・安心な社会へ。

ンリツは、情報通信・食品・薬品・
で、皆さまの暮らしやビジネスを
づくりに貢献しています。

フヲを支える。

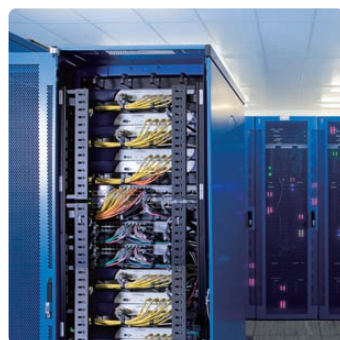


トワーク
クの監視・
保証



遠隔監視

交通・河川・災害時の
映像監視



データセンター

通信設備の高速化

誠と和と意欲によって、 新しい未来の創造を。

共生と連帯の輪で、五方よしを推進

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

東北地方の復興のために何ができるのか？ この問いに対する答えは人それぞれであり、おのおのの立場でできることに取り組んでいく以外にありません。

しかし、その根底には共通したものがあるのではないかと、私はそう考えています。それが「共生と連帯」です。

アンリツグループでは、福島県郡山市の郡山事業所および製造子会社である東北アンリツ(株)の建物に一部損傷を受けましたが、2週間後にはすべての製品生産ラインを通常体制に戻すことができました。生産ラインの早期復旧は、お客さま、取引先さま、輸送業者さま、社員が心を一つにして取り組んだ成果です。この過程で、あらゆるステークホルダーの皆さまとの共生を実感し、連帯して課題を解決することの重要性をあらためて認識しました。

私は社長就任時より、CSR経営の根幹として「五方よし」を提唱しています。五方は、「売り手」、「働き手」、「買い手」、「世間」、「自然」を指します。それぞれの利害が調和するように考え、行動する誠実な企業こそ、私たちが目指す姿です。アンリツグループは、あらゆるステークホルダーの皆さまとの「共生と連帯」の輪を広げ、人と社会、自然が調和した持続可能な社会づくりの一翼を担ってまいります。

イノベーションで新たな価値を提供する

私は、東北地方の復興は、日本がこれからどのような国づくり、社会づくりを行っていくのかにかかわる課題であると認識しています。その重要な役割を担うのが、情報通信技術です。今回の大震災を通して、「つながることの大切さ」を多くの皆さまが実感したのではないのでしょうか。まさに情報通信ネットワークは重要なライフラインです。しかもその技術革新はとどまると

ころを知らず、環境や医療・福祉、行政サービスなどさまざまな分野で一層の利活用が進展し、社会に新たな価値、利便性向上をもたらすことが期待されています。

アンリツグループは、被災した計測器の修理支援、光ファイバーの保守用計測器の無料貸し出しなどを実施しています。今後もこうした取り組みを着実に実行するとともに、これまで以上に付加価値の高いソリューションを提供し、復興に役立ちたいと考えています。

その基盤となるのが、イノベーションです。アンリツグループは、計測、映像配信、センシング、異物・質量検査などさまざまな技術を保有しています。これらの技術を新たな着想、アイデアで見直し、安全・安心で快適な社会の実現を支えるソリューションを生み出したいと考えています。

国際社会の進歩に貢献する

これからもアンリツグループが本業を通して社会的課題の解決に貢献するためには、全世界のグループ社員が価値観、倫理観を共有することが重要です。

現在アンリツグループは、計測事業をはじめ、産業機械事業、光デバイス事業などほとんどの事業をグローバルに展開しており、連結売上高の約6割、主力の計測事業では7割が日本国外のお客さまによるものです。また、日本国外で働く社員は4割にのぼり、資材の海外調達も進んでいます。法制度や習慣、文化が異なる国での事業展開やステークホルダーとの協力関係を強化していくためには、グループ全社員共通の指針が必要になります。そこで、アンリツグループは、企業行動憲章とともに「国連グローバル・コンパクト」を全員で共有しています。国際的なイニシアチブの行動原則を日常業務に組み込み、国際社会で信頼され、認められる企業を目指してまいります。

「誠と和と意欲」で未来を紡ぐ

アンリツグループは、情報通信、食品・医薬品、社会インフラなど多岐にわたる分野で事業を営んでいます。これらの事業活動の礎となるのが、経営理念に掲げる「誠と和と意欲」です。

アンリツグループは、2015年に創業120周年を迎えます。一般的に一つの事業が輝く期間は30年と言われます。変化の激しい情報通信分野で当社が長い歴史を刻んでこられたのは、「オリジナル&ハイレベル」な商品とサービスの継続的提供を目指しイノベーションを繰り返してきたからです。「誠と和」という創業以来の「変わらない価値」と、「イノベーション」という「変わることへの“意欲”」の両方が、アンリツのDNAです。これからもこのDNAを未来へ紡いでいき、社会の持続的発展と当社の利益ある持続的成長の実現に邁進していきます。今後ともアンリツグループの企業活動にご支援とご協力をお願い申し上げます。

2011年7月

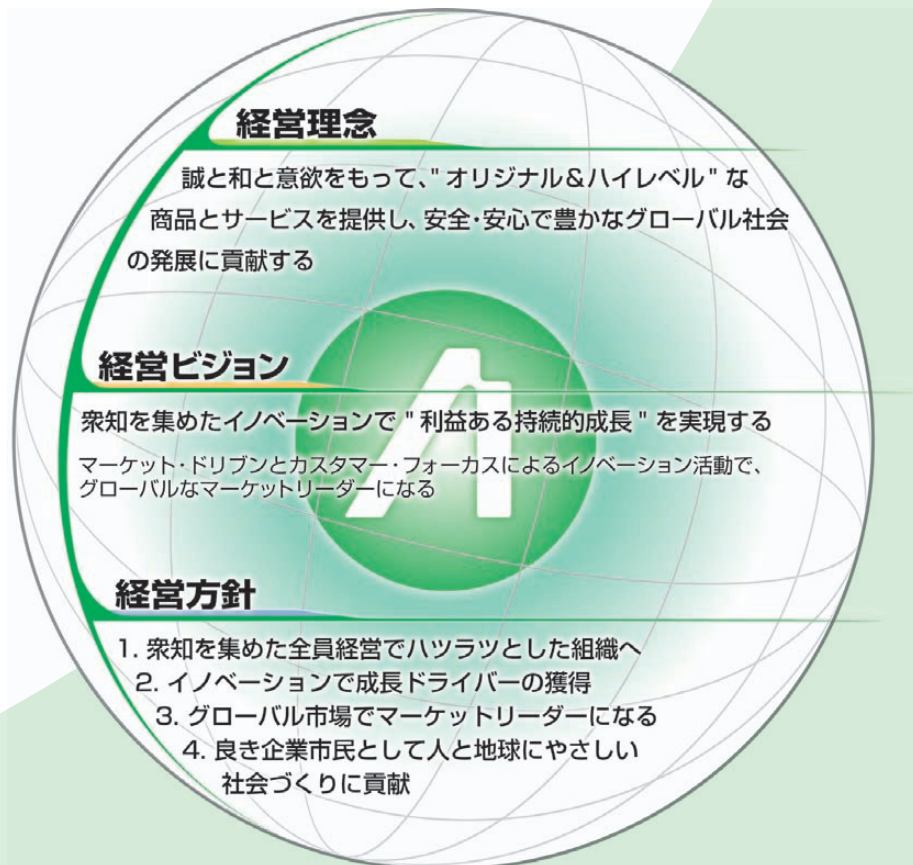
アンリツ株式会社
代表取締役社長

梶 本 裕 一



◆経営理念・経営ビジョン・経営方針

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。



国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact)



This is our Communication on Progress in implementing the principles of the United Nations Global Compact.
We welcome feedback on its contents.

アンリツは、国連グローバル・コンパクトの活動に賛同し、2006年3月に参加を表明しました。

※国連グローバル・コンパクト：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。
1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月、ニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

アンリツグループは、経営理念である「誠と和と意欲をもって、
“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、
安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する」のもと、
事業を通じて社会とアンリツの持続的成長の実現に向けた取り組みを行っています。

社会の要請とアンリツのソリューション

アンリツグループは、主に情報通信や食品・医薬品にかかわる分野でグローバルに事業を展開しています。

情報通信の進展は、「人と人」、「人と社会」、「企業と企業」をつなぐことを可能にし、人びとの生活やビジネス面で大きな変化をもたらしています。例えば、遠隔による教育・医療、交通システムのIT化、環境負荷削減への応用（Green by ICT）など、多くの分野で活用が進められています。これらは、途上国における情報格差是正や受診機会の提供、交通事故の削減、地球環境保護など、社会的課題への対応であり、かつ社会の持続可能な発展につながっています。

アンリツグループは、情報通信の分野で携帯電話端末、通信用電子部品の研究開発・製造用計測ソリューション、通信インフラの建設・保守サービス用計測ソリューション、さらに通信ネットワークの品質を保証するソリューションを提供しています。また、光通信用デバイスや通信ネットワーク上のデータの流れを制御する帯域制御システムなども提供し、確実につながり安定した品質の通信環境づくりに貢献しています。特に、次世代通信システムであるLTE向けデバイス、携帯電話端末の研究開発用計測ソリューションおよび携帯電話向け基地局の建設・保守用計測ソリューションでは、世界トップポジションを確保し、グローバルに商品・サービスを提供しています。



携帯電話基地局用計測器

食品・医薬品は、人びとの生活、健康の根幹であり、世界的に安全・安心への要望・期待がますます高まっています。このような背景の中、食品メーカーなどでは今まで以上に商品の品質向上に注力しています。アンリツ産機システム(株)は、このような

社会的要請に応えるために、食料品に金属片やプラスチック、骨などが入っていないかを検査するX線異物検出機をはじめとするさまざまな品質保証ソリューションを提供し、食の安全と安心を支えています。



X線異物検出機

事業のグローバル化とCSR

情報通信分野で計測ソリューションを提供する計測事業では、海外売上比率が71%（2009年度）から73%（2010年度）に増加し、グローバル化が進展しています。現在進行中の中期経営計画GLP2012で参入領域におけるグローバル市場シェアを10%（2009年度）から13%（2012年度）に、また食品・医薬品分野を対象とする産業機械事業では、海外売上比率を29%（2009年度）から33%（2012年度）まで拡大することを目標にしています。一方、社員構成では、連結海外社員比率が37%（2009年度）から38%（2010年度）に増加しました。

豊富な品揃えを支える開発力、お客さまに対するサポート力、グローバルに事業展開できる人材と組織などを最大限活用し、イノベーションを追求することで豊かなグローバル社会の発展に貢献するとともに、自社の持続的成長も実現していきます。

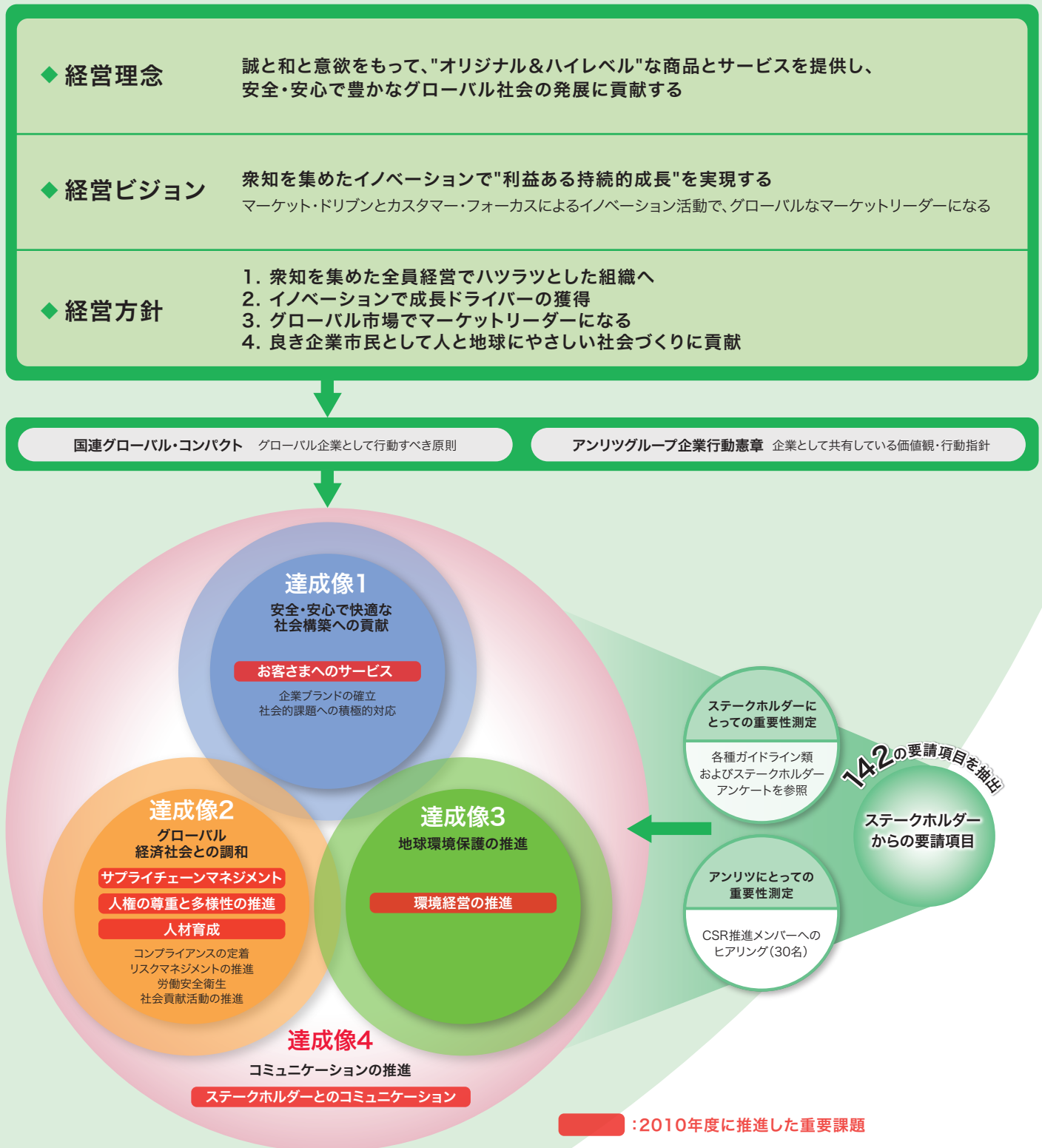
事業を推進するにあたっては、アンリツグループの経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本指針を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および企業の行動理念を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、社会的責任を果たしていきます。

CSR経営のあるべき姿を目指して

アンリツグループは、2006年に自らの将来におけるあるべき姿を4つの達成像として設定し、事業のグローバル展開に即したかたちで、CSR経営基盤を確立する取り組みを実践してきています。

達成像1「安全・安心で快適な社会構築への貢献」は、まさに事業を通じて実施するアンリツグループの貢献です。達成像2「グローバル経済社会との調和」は、グローバルに事業展開しているがゆえに必須の社員の多様性の確保、サプライチェーン全体へ

の配慮、地域社会への貢献などあるべき姿を示しています。達成像3「地球環境保護の推進」は、製品ライフサイクル全体を通じて環境保護へ取り組む決意であり、達成像4「コミュニケーションの推進」は、CSR経営全般を支えるステークホルダーとのコミュニケーション力の強化です。今後も達成像の実現に向け、マネジメントの推進およびステークホルダーとのコミュニケーション促進の両面から取り組んでいきます。



安全・安心で快適な社会構築への貢献



安全・安心で快適な
社会づくりを支援

—— 執行役員 経営企画室長 川辺 哲雄

アンリツグループは、情報通信ネットワークとICT（情報通信技術）サービスの開発、進化を支える革新的なソリューションをグローバルに提供しています。また、食品・医薬品の分野においては、重量や異物を検査する品質ソリューションを提供しています。これらの事業を通じて経営と社会のサステナビリティを確保することが、私のミッションです。

そのためには、現在の事業に満足することなく、常に次代に向けた取り組みが必要です。アンリツグループは次の10年を見据えたサステナビリティの検討を進めています。この取り組みの核となるものが、グループ経営の強化とイノベーションによる新事業の創造です。その一環として、イノベーションを巻き起こす創発のしくみを作っています。社会的な課題や要請に応えるという視点を堅持し、衆知を集めて、オリジナル&ハイレベルな価値の提供に努めてまいります。

また、東日本大震災を受け、事業継続計画（BCP）の重要性を再認識しました。今回の震災では比較的スムーズに機能したと考えていますが、万が一の場合に備え、開発やITなど重要な部門では、あらためてBCPの見直しを進めています。

アンリツグループの各事業は、皆さまの生活、ビジネスと深く密着しています。この責任と果たすべき役割の重さをグループ全体で共有し、これからも安全・安心で快適な社会の実現に貢献してまいります。

アンリツは、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

携帯電話端末のグローバルな普及に貢献

携帯電話端末は、年間10億台を超える台数が生産され、世界人口の半数以上が利用しています。各国では、それぞれの事情に応じて種々の携帯電話通信システム*1を採用しています。

このため、携帯電話端末製造市場では、既存から最先端の携帯電話通信システムまで対応できる計測器が必要となっています。

しかし、携帯電話通信システムごとに計測器を提供することは、お客さまの設備投資の負担となるとともに、省資源にも反します。

これに対してアンリツは、本体にオプションの測定ハードウェア・ソフトウェアを搭載することで動作できる計測器を商品化しています。このハードウェア・ソフトウェアは、さまざまな携帯電話通信システムで必要とされる測定機能を網羅し、お客さま

の用途に応じて選択できる柔軟性・拡張性を有しています。

この計測器は多くの携帯電話端末メーカーの生産ラインに組み込まれ、お客さまの生産効率化と省資源化に寄与するとともに、携帯電話端末のグローバルな普及を支えています。

*1携帯電話通信システム:

世界で採用されている通信システムには、LTE、W-CDMA、CDMA2000、TD-SCDMA、GSM、などがあります。



ラジオコミュニケーションアナライザ

事業を通じた復旧支援

ライフラインの一つである情報通信ネットワークを事業の根幹とするアンリツは、東日本大震災により被害を受けた通信ネットワークの復旧を支援するため、計測器の無償貸し出しを実施しています。2011年6月現在、光ファイバーの信号品質確認や障害発生箇所を特定する計測器約60台が、活用されています。

また、地震で被害を受けた計測器やX線異物検出機などの無償故障診断サービスも実施しています。現地での巡回出張診断、電話やメールによる受付・相談など、支援にあたっています。



光ファイバー用計測器

LTEの商用サービス開始に貢献

LTE(Long Term Evolution)は、日本、アメリカ、欧州で開始された新たな情報通信サービスです。LTEは、携帯電話端末で光ファイバー並みの通信サービスを可能とする高速・大容量移動通信システムであり、遠隔医療、電子政府などへの活用も期待されています。

携帯電話端末メーカーがLTE携帯電話端末を商用化するには、その端末が国際標準規格に適合しているという認証を取得する必要があります。この認証に使用されるのがアンリツの携帯電話端末認証テストシステムです。このテストシステムには、GCF*2が定める全テストケース(試験項目)における80%の認証取得が求められています。

この条件を初めてクリアしたのがアンリツです。アンリツは、2010年4月に業界で初めて、テストケースのGCF認証を取得しました。その後も、開発を続け、2010年12月には、アメリカ、欧州で運用される周波数帯域において、競合メーカーに先駆け、80%のテストケースでGCF認証を取得しました。

LTEは世界各国の通信事業者が導入を計画しており、モバイルブロードバンドサービスの世界標準となることが期待されています。アンリツはその商用サービス開始を支えています。

*2GCF(Global Certification Forum):

携帯電話端末のグローバルな相互接続性を保証するため、ネットワークでの運用基準や携帯電話端末の認証基準を定めている団体



LTE RFコンFORMANCEテストシステム



LTEプロトコルコンFORMANCEテストシステム

グローバル経済社会との調和



多様性の尊重と グローバル化への対応を推進

人事総務部長 武内 一郎

事業のグローバル化やライフスタイルの多様化に伴って、人権の尊重と多様性に配慮した制度や職場環境が企業に求められてきています。これは、グローバルに事業を展開するアンリツグループにとっても重点課題の一つです。

この課題への対処の基盤となるのが、アンリツグループの経営理念で掲げる「誠と和と意欲」の“和”だと捉えており、人それぞれの生き方、考え方を認め合いながらともに仕事をしていくことが重要であると考えています。制度を作るだけでなく、社員全員が多様性について理解を深めた職場環境を整えていきます。

また、今まで以上にグローバル化と多様性を考えた人材育成にも力を入れていきます。育成カリキュラムに工夫を凝らし、それぞれの生活スタイルや考え方に応じて、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるような、多様なキャリアパスを作っていきたいと考えています。

アンリツグループの社員には、「人をうやまう」、「恥とすることはしない」という精神が根付いています。こうした誇らしい点は持続させながら、多様性とグローバル化に対応する職場環境の整備と人材育成を進め、「働きやすい会社」、「成長実感のもてる会社」づくりを目指していきます。

アンリツは、誠実な企業であるための基盤を強化し、社員の人権の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場を整備するとともに、サプライチェーンや地域・社会との信頼関係を構築します。

グローバルに活躍する 多様な人材の育成

アンリツグループの売上高のうち国内の割合は約4割で、6割近くを海外の売上が占めています。さらに主力である計測事業の売上高の7割は海外で、連結の社員の4割は日本国外で働いています。

グローバルな事業展開および働き方の多様化に伴い、人権の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場づくりの推進はますます重要になっています。人材の採用や組織内のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人材が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

VOICE 相手の尊重から始まる信頼関係

アンリツ・カンパニー（アメリカ）へ駐在してから4年が過ぎました。私の主な業務は、バイヤーとして、アメリカの取引先さまとの交渉、米国市場での価格調査およびアンリツ・カンパニーのバイヤーと協業しての調達活動、情報交換などです。多くの人の支えで、仕事をできたことに感謝しています。アメリカ人へのお願いの仕方、仕事の進め方、文化、考え方、育った環境の違いなどがありますので、現地の慣習を一つずつ経験して、体や感覚で覚えることを大事にしています。「郷に入れば郷に従え」という言葉通り、現地の皆さんと一緒に仕事を進めるよう心がけ、日本で経験してきた考えを織り交ぜつつ、よりよい方向へ進んでいけるように日々取り組んでいます。直接会って話をし、相手の意見を尊重し、お互いが妥協しつつも納得できる方向性を見つけて、信頼関係を強めていくように努めています。残りの駐在期間も、自分を成長させるために多くの経験を積み、公私ともにエキサイティングな日々を過ごせるようにしていきたいと考えています。

アンリツ株式会社
資材部 アンリツ・カンパニー（アメリカ）駐在
宮窪 康守



多様性配慮に関する主な人事施策

●障がい者雇用の促進

障がい者が能力を発揮できる職域の開拓と職場環境整備に取り組んだ結果、アンリツ（株）における2010年12月時点の障がい者雇用率は1.98%となり、法定雇用率を達成しました。

●アンリツ（株）第2期次世代育成支援行動計画

アンリツ（株）では「第2期次世代育成支援行動計画」（計画期間：2008～2011年度）に基づき、育児休業制度の拡充などに取り組んでいます。仕事と育児の両立がさらに図れるよう、制度の充実に努めています。

●採用のボーダーレス化

国籍にこだわらない採用を推進し、2010年12月末現在で29名の外国籍社員が日本国内の職場で働いています。

CSR調達への取り組み

アンリツは、サプライチェーン全体で社会からの要請に応じていくために、取引先さまとの信頼関係に基づく強固なパートナーシップの構築を目指し「資材調達基本方針およびお願い事項」、「CSR調達ガイドライン」を定めています。

当社の調達活動において公平かつ公正で健全な取引を行うことにとどまらず、取引先さまの事業活動においても人権・労働・環境への配慮がなされるよう、必要に応じて要請や支援を行うことも、当社のCSR調達の責任と捉えています。

事業継続計画（BCP）の強化

国内アンリツグループの事業継続計画において、特にリスクが高い課題の一つがサプライチェーンの維持です。

SCM*本部では、主にサプライチェーンのBCPについて、災害・事故を想定して、組織体制や重要業務の抽出、リスクと被害の想定などを盛り込み、神奈川県厚木市のアンリツ（株）本社と福島県郡山市にある郡山事業所および製造子会社である東北アンリツ（株）が連携する計画を策定しています。

2011年3月に発生した東日本大震災においては、郡山事業所の建屋の一部被災と、ライフラインの途絶を経験しました。今後、この経験に基づくBCPの改善を行い、よりスピーディで効果的な体制構築と訓練の実施に取り組んでいきます。

*SCM: サプライチェーンマネジメント

地球環境保護の推進



持続可能な
地球環境への貢献を目指して

取締役 執行役員 環境総括 谷合 俊澄

東日本大震災に端を発する電力不足に直面している今日、事業活動、商品開発・提供における一層の省エネルギー対策は、社会のサステナビリティ(持続可能性)に直結する課題となっています。

アンリツグループは、「省エネルギー」、「省資源」、「有害物質削減」により商品の環境負荷を低減する“Green of Products”とお客さまの環境負荷を直接改善する“Green by Solutions”において、LCA(Life Cycle Assessment)を導入しています。この取り組みをさらに強化し、商品のライフサイクル全般でCO₂排出量を評価し、高い環境負荷削減効果が見込める部分で対策を実施していきます。

また、今夏は、敷地内の建物ごとの輪番休業や振替休日を中心にした節電対策を実施していますが、中長期的に社会からの要請に応えていくためには、社員のエコ意識のさらなる向上が必要だと考えています。職場にとどまらず、家庭でも常に省エネを心がけるよう、さまざまな手段・機会を通じて、社員の啓発に努めていきます。

企業経営における環境の重要性はますます高まっています。これからも旧来の取り組みに甘んじることなく、事業活動、商品開発両面で、一段高い視点からアンリツグループの環境経営を実践し、皆さまの期待に応えてまいります。

アンリツは、環境に配慮した商品の開発と生産を追求し、グローバル環境経営を推進することで、地球環境保護に積極的に貢献します。

■ アンリツの環境経営

アンリツグループでは、右図のような環境戦略にのっとり、商品のライフサイクル全体を見据えてグローバルに環境経営を推進しています。具体的には、商品開発面で、「省エネルギー・省資源商品の提供」、「グリーン化商品の提供」、事業活動面で、「省エネルギーの推進」、さらにこれらの全体を支えるものとして、「エコマインド・環境コミュニケーションの強化」という4つの主要な方策を軸に取り組んでいます。事業活動における、「3Rの推進」、「化学物質の削減とリスク対策」については、今後も継続的に維持・改善していきます。

また、アンリツの事業形態と生物多様性との関係性を考慮し、これらを実践していくことが気候変動抑制および乱獲・汚染による生息地喪失の抑制にもつながっていくことから、生物多様性保全の基本方針としています。

ライフサイクルシンキングによるグローバル環境経営の強化

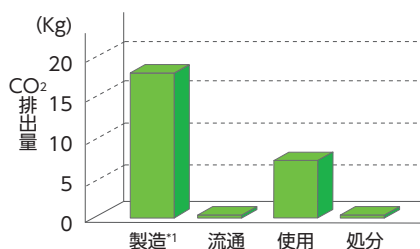
	生物多様性保全への対応		
	エネルギー 地球温暖化防止	資源 循環型社会の形成	化学物質 有害物質削減
商品開発 (エコプロダクツ)	方策1 省エネルギー・省資源商品の提供 Green of products Green by solutions		方策2 グリーン化商品の提供
事業活動 (エコオフィス) (エコファクトリー)	方策3 省エネルギーの推進 CO ₂ 削減	3Rの推進 (継続的な廃棄物削減の徹底)	化学物質の削減とリスク対策 環境コンプライアンスリスクの低減
方策4 エコマインド・環境コミュニケーションの強化			

■ LCAに基づく環境配慮型商品開発

4つの方策のうち、特に「省エネルギー・省資源商品の提供」は、今後さらに強化していくべき課題と捉えています。その一つの施策が、LCA (Life Cycle Assessment) に基づく環境配慮型商品開発の強化です。環境負荷を低減していくためには、自社の製造工程だけではなく、原材料採取から製造・物流・使用・廃棄にいたる商品のライフサイクルすべての段階における環境負荷削減に目を向け、取り組んでいくことが必須です。

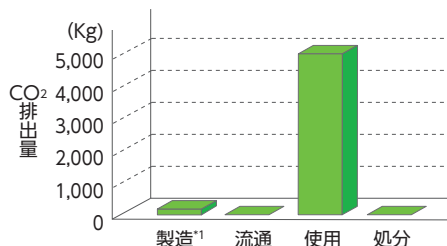
たとえば、小型・軽量のフィールド用計測器では、全CO₂の70%前後が製造工程で排出されます。一方で、携帯電話端末製造用計測器では約95%がお客さまの使用段階で発生するものもあります。こうした特徴をきめ細かく把握し、商品ごとに効果の大きい改善ターゲットを定め、効率的な開発ができる体制構築を進めています。

■ フィールド用ハンドヘルド計測器のライフサイクルにおけるCO₂排出量



フィールド用ハンドヘルド計測器

■ 携帯電話端末製造用計測器のライフサイクルにおけるCO₂排出量



*1製造=原材料製造+部品製造+製品組立



携帯電話端末製造用計測器

コミュニケーションの推進

コミュニケーションを 大切にする環境作りを推進

—— コーポレートコミュニケーション部
CSR推進チーム・課長 土井 みつ江



アンリツは、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、良好なパートナーシップの構築を推進しています。私は、国内アンリツグループから選任されたメンバーで構成するCS推進部会の事務局として顧客満足度向上の推進に携わっています。この活動で心がけているのが、常にお客さまの視点で何が問題なのかを認識し、お客さまの期待を超える改善活動を行っていくという姿勢です。

2010年度は、品質、納期などはもちろんのこと、お客さまとの窓口改善に焦点をあてた活動に取り組み、お客さまからのお問い合わせに確実にお答えするしくみや社外向けWebサイトの閲覧性、使いやすさの改善などを実施しました。また、コミュニケーションを深めていくためには、社員の意識改革が重要であると感じており、CS教育のプログラムを見直し、アンリツグループ社員への集合教育を実施しました。今後は受講対象者の枠を拡大し、あらゆる部門の社員が参加できる形に発展させていくことを考えています。

今後もお客さまの期待を上回る価値を提供し信頼される企業であり続けるために、お客さまのみならず、あらゆるステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にする環境作りを推進していきます。

アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

社会とのコミュニケーション

●グローバルWEBの構築

世界のお客さまに同一のサービス・サポートを提供できるよう、デザインや操作性を統一し、多言語に対応したインターネットWebサイトの改善を行いました。製品情報やサポート・サービス情報が検索しやすく、入手しやすい構成を目指しました。2010年度は中国、オーストラリア、欧州、米国を相次いでリニューアルしました。



米国向けアンリツWebサイト

●インターンシップへの協力

国内アンリツグループでは、就業体験を通して働くことの意義や実社会、企業活動を学ぶ機会を提供するため、毎年生徒や学生を受け入れています。2010年度は、コーポレート部門、開発部門などで職場体験が実施されました。

VOICE | 日本で得た貴重な経験

2010年秋の10週間、デンマークを離れアンリツ本社（神奈川県厚木市）にインターンとして勤務しました。お世話になったのはコーポレートコミュニケーション部で、私の主な業務は競合分析とCSR推進のサポートでした。滞在中感じたことは、自分がとても歓迎されているということです。

日々の業務指導はもちろん、業界関連の会議参加や展示会見学の機会を設けてくれました。また業務以外でも、観光や生活面などでサポートを受けました。

海外経験だけでなく、デンマークとは異なる会社の文化、そして問題解決に対するさまざまな対処法を学ぶことができました。これらすべての経験は私にとって大変貴重なものであり、将来に役立てていきたいです。

Anritsu A/S
Human Resources, Student Assistant
Ghazal Yosefipor



グループ内コミュニケーション

●社員との情報・意識の共有

経営層と社員のコミュニケーションをより活性化するため、さまざまな交流機会とツールを設けています。

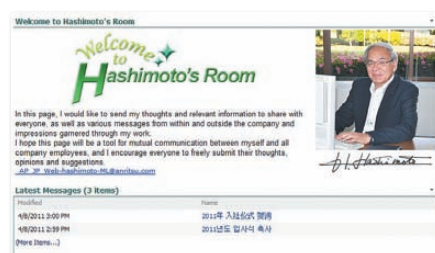
2010年度は、社長をはじめ役員がアメリカ、欧州、香港で社員と対話をしました。

”Innovation for Sustainability”をテーマに、「経営理念・経営ビジョン・経営方針」やアンリツグループのCSRの考え方などを語り合い、意識の共有を図りました。

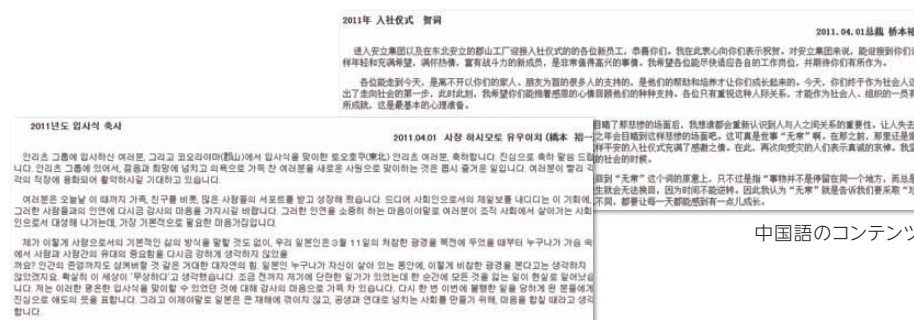
また、社長が発信する社内向けWebサイト「Web社長室」をリニューアルし、全世界のアンリツグループ社員とのコミュニケーションツールとして活用しています。日本語版・英語版があり、英語版には中国語・韓国語のコンテンツも掲載しています。



社長と社員の対話



Web社長室からの発信（英語版）



中国語のコンテンツ

韓国語のコンテンツ

2010年度の実績と2011年度の目標

特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ(株)および国内グループ会社です。

評価……………○:達成 △:達成率50%以上 ×:未達成

達成像	重要課題	2010年度実績	達成度	2011年度目標
【達成像1】 安全・安心で快適な 社会構築への貢献	お客さまへのサービス	①お客さま対応フローを整備。回答履歴管理を徹底 ②展示会でCS調査を実施(計測事業、情報通信事業)。 同報メール配信によるCS調査を実施(計測事業) ③CS推進部会でCS方針を各事業グループへ展開。イントラネットでCS方針を周知。 CS教育スケジュールを立案・実施(2010年度受講者:延べ18名)	○ ○ ○	①グローバルCS推進活動の現状把握(アジア地域) ②個別CS調査のグループ内展開と社員のCS意識調査の実施 ③アンリツグループ全体へのCS教育の実施
	企業ブランドの確立	商品やIRのニュースに加え、CSRのニュースも積極的に発信	○	Webを活用した適時なコミュニケーションを継続
	社会的課題への積極的対応	重要課題を5つに絞り込み、取り組みを推進	○	社会的課題に即した事業活動の推進
【達成像2】 グローバル経済 社会との調和	コンプライアンスの 定着	①「グループ行動規範」と「アンリツグループの一員としての心得」を立案し、 グローバル組織へ展開 ②改訂版「グループ行動規範」のWebでの公開と 「アンリツグループ一員としての心得」を全社員に配布 ③国内グループ会社のヘルプライン窓口との個別連絡会を実施。 ヘルプライン体制と運用を確認	○ ○ ○	①グローバルなコンプライアンス推進の中期計画立案と実施 ②「行動規範」浸透のための教育ツールの充実とグローバル展開 ③国内グループ会社のヘルプライン窓口との定期的な 連絡会の実施
	リスクマネジメントの 推進 (情報セキュリティ)	①日本、アジア、ヨーロッパ、アメリカのITマネージャによる IT統制の進め方の確認を実施 ②CSR推進月間に全部門においてセキュリティ関連のビデオによる啓発を実施 ③システム監視ソフトウェアを導入し、主要なサーバに対し、監視を開始 ④グローバルWebのリソースを完了。 Webサイトの脆弱性テストによるセキュリティ強化を実施 ⑤サーバの仮想化により物理サーバを半減 ⑥販促用機器などのウイルス対策強化を一部の機種で対応開始	○ ○ ○ ○ △ ○	①USBメモリ管理の徹底 ②セキュリティ教育の継続 ③ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証継続 ④IT統制の改善 ⑤外部協力会社とのセキュアな情報共有の展開
	リスクマネジメントの 推進(内部統制)	・財務報告以外の内部統制にもモニタリング領域を拡大、 リスクアプローチによる監査手続きを開発し、業務監査トライアルを実施 ・有効で効率的な監査資源投入と合理的な監査対象選定を実現する監査計画策定 手続きを開発 欧州における財務報告関連リスクの洗い出しとコントロール整備を完了	○ ○ ○	①リスクアプローチに基づいた内部監査による全社的な リスクマネジメントの強化 ②海外現地法人の貿易管理体制の把握/指導などを通しての グローバルなリスクマネジメント体制の強化
	サプライチェーン マネジメント	①調達メンバーをグローバルに配置 ②取引先監査計画の最適化を図るシステムを改善 ③アンリツグループCSR調達方針説明会を実施しガイドラインの運用を開始 ④取引先300社を対象にした製造拠点調査を完了 ⑤震災対応を盛り込み次年度、手順書として策定予定	○ ○ ○ △ ×	①グローバル調達体制の構築 ②定期取引先監査の推進 ③CSR調達の推進 ④グローバルレベルでのBCPの策定と実施
	人権の尊重と 多様性の推進 人材育成	①人材育成体系の整備と複線型キャリアパスを検討 ②企業グループ算定特例により国内アンリツグループ全体で法定雇用率確保を検討。 アンリツ(株)2010年12月障がい者雇用率実績:1.98% ③「教育研修プログラムの再構築」と併せて検討 ④少数派優遇制度(Affirmative Action Plan)に基づく採用を継続実施(USA) USA、欧州、アジアパシフィック地域で社員意識調査や社員との対話を実施 社員教育、育成を継続実施(中国)	△ ○ △ ○	①グローバル人材輩出のための新しい人材育成体系に基づいた プログラムの実施 ②国内アンリツグループ全体での法定雇用率の確保 ③震災復興に向けアンリツグループとしての電力対策の実行と BCPの見直し ④社員との対話の継続実施とキャリア支援計画の策定と実施 (USA、UK、中国)
	労働安全衛生	①国内アンリツグループ共通方針に基づく活動を継続。 家族の週間に合わせ定時退社の推奨、定時退社日の追加などの施策内容を 一部強化した取り組みを実施 ②アンリツ(株)本社地区の休業災害ゼロを継続(2011年3月末) ③産業医による管理者向け専門教育を実施。 外部カウンセラーによるリフレッシュトレーニング推進を継続 ④社員への健康プログラム提供、安全教育を実施(USA) 社員の福利厚生への補助を継続実施(UK)	○ ○ ○ △	①労働時間適正化施策の継続 ②アンリツ(株)本社地区の休業災害ゼロの継続 ③メンタルヘルス対策の充実(継続) ④社員との対話を継続的に進め、労働安全衛生の環境整備計画 の策定と実施(USA、UK、中国)
	社会貢献活動の 推進	①「CSR報告2010(Web版)」に「社会貢献活動」方針を公開 ②社外向けWebサイトの「CSR情報」内に「CSRニュース欄」を設け、 当年度の地域・社会貢献活動を適時開示(日本) ③社内報において社会貢献活動を社内へ発信。社員の個別のボランティア 活動報告は次年度の課題	○ ○ △	①地域社会貢献の方針をグローバルに浸透 ②グローバルな地域社会貢献活動の社外向け報告を適時開示 ③社員のボランティア活動の定着と活動報告の推進
【達成像3】 地球環境保護の 推進	環境経営の推進	①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物の発生量は114.8トン[160.4トン以下] []は10年度目標 - 埋め立てに回される廃棄物の排出量は、7.3%削減(USA)[09年度比10%削減]	○ △	①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物(一般廃棄物+産業廃棄物)の発生量を160.4トン以下 (国内アンリツグループ) - 埋め立て廃棄物の排出量を2011年度第4四半期までに 2009年度比10%削減(USA)
		②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量(原油換算)は、10.6%削減[06年度比6.0%削減] - エネルギー使用量は、1.5%削減(USA)[09年度比1%削減] - 紙の使用量は、2009年度よりも増加(USA)[09年度比10%削減] - 水の使用量は、2.5%削減(USA)[09年度比2%削減]	○ ○ ×	②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量(原油換算)を2006年度比7.5%削減 (国内アンリツグループ) - エネルギー使用量を2009年度比1%削減(USA) - 紙の使用量を2009年度比10%削減(USA) - 水の使用量を2009年度比2%削減(USA)
		③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 環境配慮型製品の占める割合:100%[80%以上] - 省資源10%以上の機種の占める割合:33.3%[30%以上] - 消費電力改善率30%以上の機種の占める割合:66.7%[20%以上]	○ ○ ○	③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてを環境配慮型製品にする - 対象製品のすべてを省資源10%以上の製品にする - 対象製品のすべてを消費電力改善率30%以上の製品にする
		④維持監視項目 - 産業廃棄物と一般廃棄物の埋立率:0%[0.5%未満] - 自主管理基準超過件数:0件[0件]	○	④維持監視項目 - ゼロエミッションの維持:埋立率0.5%未満(国内アンリツグループ) - 無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持:0件(厚木地区)
【達成像4】 コミュニケーション の推進	ステークホルダーとの コミュニケーション	WebサイトのCSRTトップページにCSRニュース発信欄を開設し、運用開始	○	Web版CSR報告の閲覧性の改善

・USAとはAnritsu Company(アメリカ)、UKとはAnritsu EMEA Limited(イギリス)、中国とはAnritsu Company Limited(香港)を表します。

・2010年度目標は、<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/>の「CSR報告2011」にある「2010年度の実績、2011年度の目標」をご覧ください。

第三者意見／第三者意見を受けて

第三者意見

第三者意見を述べるにあたり、社長様はじめ役員の皆さまから、年間を通じたCSR取り組み内容の紹介を受ける機会を頂戴しました。アンリツではこれまで毎年10月を企業倫理月間とされてきたところ、2010年度からはCSR推進月間と改め、社長様自ら「経営理念・経営ビジョン・経営方針」を社内浸透させる陣頭指揮をとり、多角的、多面的に自らの活動を見直す機会を設けるなど、社会的要請にしっかり応える企業として、活動を着実に進められています。

次に開示面について、私は以前から、コミュニケーションツールとしてのCSR報告掲載内容に求められる重要なポイントは、コンテクスト(背景)情報をまずは読者にきっちり提供したうえで、それをふまえてのコンテンツ内容、すなわち取り組み状況や成果報告を読者の皆さまに吟味していただく姿勢にあると考えていました。アンリツの今回の報告では、CSRについて事業活動との関連性を紹介する試みがなされています(P6-7)。アンリツ独自のビジネス内容を読者の皆さまにご理解いただいたうえでCSRの取り組みを評価いただくことにつながることから、優れた開示姿勢であると評価します。

昨年、イノベーションについてキーパフォーマンス指標の設定を求めたいとする旨の第三者意見を述べさせていただきましたが、この点については、あまり進展が見られな



株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史



かったようです。今やCSR報告は、社会の持続可能性に貢献することを通じ、企業自らの持続可能な成長性を訴求するツールと捉えられています。アンリツのキーファクターがイノベーションである限り、イノベーションへの考え方、マネジメント体制、ターゲット指標などを可能な限り外部開示することこそ、アンリツのこれからの成長性について、その魅力を訴求することにつながるものと信じます。イノベーションの成果を性急に求めたいということではなく、アンリツならではのイノベーションプロセスを紹介していただくことが、ステークホルダーがアンリツに期待する本業を通じた社会貢献に関してコミュニケーションをスタートさせるきっかけを与えるものと考えます。

第三者意見を受けて

2010年度のCSR活動および事業活動とCSRの関連を記述した報告に対して評価をいただき、誠に有難うございます。

ステークホルダーの皆さまに弊社CSR活動をより深くご理解いただくため、新たに「アンリツのCSR」というページ(P6-7)を設けました。“社会の要請”と“事業”、さらにCSR活動のつながりを解説しました。これらの関連性を理解いただくための表現にはまだ工夫の余地があると考えますので、次回以降改善してまいります。

また、イノベーションに対応するキーパフォーマンス指標の設定については、社内におけるイノベーション活動を進めるとともに、ご提示いただいた開示項目を検討していきます。

今後も福島様からの指摘事項やステークホルダーの皆さまからのご意見などを真摯に受けとめ、CSR活動を進展させていきます。

アンリツ株式会社
コーポレートコミュニケーション部CSR推進チーム



アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名5-1-1

TEL:046-223-1111

<http://www.anritsu.com>

本書は再生紙を使用しています。